

人口2万人未満の市町村が7割に達する北陸地域 「多自然居住地域」に向けた連携が求められる。 多自然居住地域に関わる北陸の動向

【北陸の全市町村の7割が人口2万人未満の市町村】

特集1（「都市と農村の連携による地域づくり」）で見たように、武内氏は今後自治体経営が難しくなるのは、人口2万人未満の市町村だと指摘している。国も地方も財政環境の大きな好転が見込めない時代を迎えて、医療や文化分野にも効率性や経営発想が求められており、人口が少ない市町村ほど

投資が抑制されるという事態が進むことが予想される。

では、北陸の223の市町村（新潟市と黒埼町の合併により、現在は222）のうち、人口2万人に満たない市町村はどのくらいあるのだろうか。

平成11年3月末時点で見ると、北陸4県で人口2万人未満の市町村は156、全市町村の7割を占めている。最も比率の低い富山県

でも51%と過半数を超えており、112の市町村がある新潟県では、そのうちの84、4分の3が人口2万人未満となっている。（図1、図2）

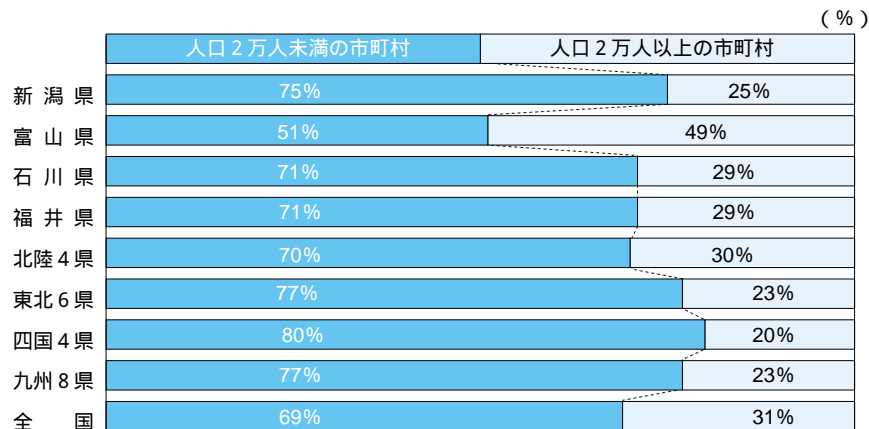
東北や四国、九州地域に比べると比率は低いものの、全国の69%をわずかながら上回っている。北陸地域には、今後厳しい時代を迎える市町村が多いといえるだろう。

図1 人口段階別市町村数（平成11年3月末）

	50万人以上	30万～50万人	10万～30万人	2万～10万人	1万～2万人	5000～1万人	5000人未満	(市町村数)
新潟県	0	1	2	25	26	37	21	(112)
富山県	0	1	1	15	7	3	8	(35)
石川県	0	1	1	10	12	10	7	(41)
福井県	0	0	1	9	8	10	7	(35)
北陸4県計	0	3	5	59	53	60	43	(223)
全国	20	44	159	389	711	846	684	(3229)

(市町村自治研究会「全国市町村要覧」)

図2 人口2万人未満の市町村比率



(市町村自治研究会「全国市町村要覧」)